

尾瀬・景鶴山スキー A

杉崎 圭洋

■山行年月日:2019年4月28日～30日

■メンバー:窪田道男 杉崎圭洋

■コースタイム

28日 桧枝岐村 御池駐車場(8:20)～温泉小屋(13:30)～下ヨサク沢下部BC(15:30)

29日 BC(6:20)～与作岳(8:20)～景鶴山山頂下部(10:20)～BC着(11:10)

30日 BC(5:40)～温泉小屋(6:45)～御池駐車場(11:40)

七入を過ぎて御池の駐車場への登りに入ると所々に昨日降った雪が残っている。坂道のカーブで登れなくなった車を1台追い越し何とか駐車場に辿りついた。今年は3月まで雪が少なかったが、4月は寒い日が多く御池駐車場の雪の壁は例年の倍ぐらいあるように見える。

準備を済まして裏燧林道へコースをとる。

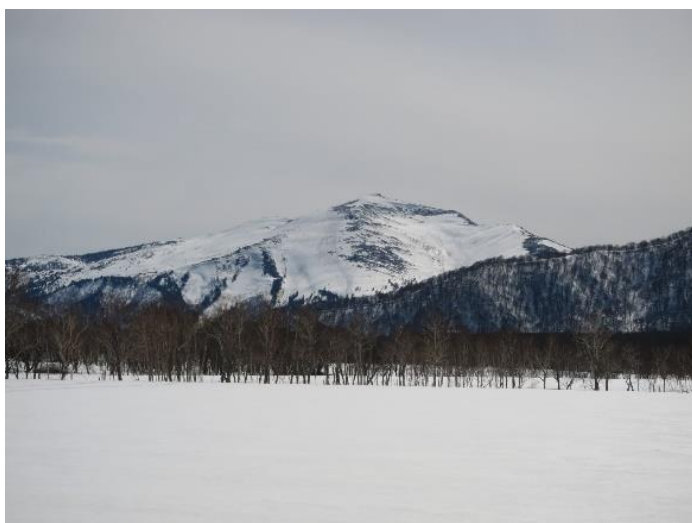
足首ぐらいの積雪があり先行者のトレースが一本あるが、ほとんどの登山者は燧ヶ岳方面へ行っており静かな山行になりそうだ。私が先行しトレースをかりてどんどん進んで行くと窪田さんから「少し登り過ぎてるなあ」と声が掛る。どうやら先行者は途中から燧ヶ岳に登るルートを取っているようだった。そこから、ルートを修正しながら

燧ヶ岳の裏側へ回り込むのだが、当初は少し登ったぐらいショートカットになって丁度いいぐらいにしか思っていなかったが、ルートを修正しだすと小さな沢が次々と現れ、密集した林なども出てきて時間を取られることとなった。通常のルートに戻り静かなブナの森を抜けると温泉小屋が見えて来た。前半少しこずったが、先行きもだいぶ見えてきた。少し休んで歩き出すと真っ白な尾瀬ヶ原に飛び出した。

至仏山のなだらかな斜面が日に照らされている。見渡す限り人の姿は見えないが雪には人の歩いたトレースがあった。尾瀬ヶ原をのんびりと歩き東電小屋を経て予定通り下ヨサク沢に到着してテントを設営した。

二日目は少し穴の空き始めた下ヨサク沢を

尾瀬ヶ原より至仏山を望む



登り稜線へ向かう。傾斜も程良く順調に高度をかせぎ与作岳の稜線に出る。稜線にはスノーシューのトレースがくっきりと刻まれ登山者の姿も見える。さらに進み影鶴山の山頂が見えてくると景鶴山の肩から山頂まで登山者が列をなして登っている。どうやら鳩待峠から入山し近くの小屋を起点に日帰りで行っているようだ。残念ながら昨日までの静けさは吹っ飛んでしまった。

景鶴山の肩からはごちゃごちゃした山頂をパスして北側の斜面をトラバースし影鶴沢の源頭に出た。こちら側には登山者の姿はなくノートラックの斜面が広がっていた。少し緩みぎみの雪だが快晴で斜面の起伏もはっきりと見える。「先に行っていいよ」と声を掛けられて滑り出す。楽しくて止まるのが勿体なくなりどんどん降りてしまった。途中から下ヨサク沢にトラバースしてBCに到着。時間もたっぷりあるので焚き火を囲んで祝杯となった。

景鶴山までもう少し



正確に進み来るときは渡らなかった小さな橋も渡った。風も少しあり休んでいると冷えてくるので休まずに進む。濡れたザックが肩に食い込み始めた頃に上田代に出る。ここからは傾斜がありシールを外して滑って進めるようになる。その後、姫田代・御池田代と最後の滑りを楽しんで御池駐車場に到着した。

景鶴山の計画に参加を申し出た当初は、燧ヶ岳に登り尾瀬ヶ原に滑り降りるのかなと思



立派な雪壁の御池駐車場へ戻る

っていたが、「林が濃くてダメだ」と窪田さんは体験済みであった。以前より燧ヶ岳の西側に行っていたが、このエリアに精通している窪田さんに同行させてもらう事が出来てすごくラッキーだった。機会があればまた訪れたい。

尾瀬・景鶴山スキー B

窪田 道男

28日、連休初日の晴天の中、久しぶりの泊りの山行に期待と不安を抱え、会津から一路桧枝岐を目指す。昨日まで雨などの荒天であったが、逆に今日の桧枝岐は晴天の中の新雪が期待できる。桧枝岐を過ぎると三池駐車場が近づくと道路がシャーベット状となり、一部日陰は凍っている。最後のカーブあたりで名古屋ナンバーのバンがスリップして立ち往生していた。

御池駐車場は、除雪してあるが、我々が到着した時間（7:40am）ほぼ7割が車で埋まっていた。早々に準備してスタートするが、燧裏林道方面にはわずかなトレールのみで、新

雪のラッセル後をたどっていく。それもしばらくすると燧ヶ岳へと上がっていくので、トレールを外れ、そこからは、我々だけの静かな山。大きなシラビソの樹林が美しい。所々で沢の渡りが苦勞するが、意外と積雪があつて具合よく進める。真っ白な平ヶ岳、越後駒などが遠望できる。順調に、温泉小屋着。その後、広い尾瀬ヶ原を横断し東電小屋をへて、下ヨサク沢の沢沿いを上がり、上り口下部のブナ林にBCを設営。

29日、今日も快晴。朝はまだ雪面が硬いのでシールが効いて快調に歩ける。下ヨサク沢を詰めヨサク岳への稜線に上がると、踏み固



左奥のケイツル沢を滑降

められたトレールが稜線に出来ていた。老齡のご婦人二人組に会う。軽装なので竜宮小屋あたりからかもしれない。我々はスキーなので、登りやすいところを辿って与作岳へ。休憩しているとぞくぞくと軽装の登山者が上がってくる。スキーはいないが。さらに景鶴山を見ると、頂上稜線に団体さんが連なっているのが見て取れ、びっくり。我々はトレールを外れて景鶴の北面をトラバースし、ケイヅル沢の源頭に出る。ここにはだれの痕跡もないきれいな大斜面。杉崎さんは、一気にきれいなシュプールで滑り降りていく。途中か

ら、下ヨサク沢へ目掛けてトラバース。途中の沢筋をうまい具合に斜滑降で過ぎると、BCまでは、1時間もかからず到着。午後は、盛大な焚火と炙りベーコン+アルコールの宴。のんびり尾瀬の大自然を満喫した。

30日、夜半から雨がぱらついていた。しとしと雨の中、早立ちする。雨でも意外とスキーが滑り、快調に温泉小屋まで滑っていった。ただ雨でやや風もあり寒くてあまり休めない。標識沿いにもくもくと燧裏林道を歩いて御池駐車場には午前中に到着。温泉と桧枝岐そば連休山行の締めくくり。

